

CASBEE 京都-新築

標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2015年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都産業大学 真理館	階数	地上5階
建設地	京都市北区上賀茂本山436他	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、市街化調整区域	平均居住人員	3,860 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,600 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	
敷地面積	259,105 m ²	作成者	勝山 太郎
建築面積	2,408 m ²	確認日	
延床面積	9,318 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 94%

③上記+②以外の 94%

④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境

Q2 サービス性能

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 4.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	既存建物との調和	その他
Q1 室内環境	水平庇による日射遮蔽、複層ガラス・日射遮蔽フィルムによる日射遮蔽と断熱性能向上による空調負荷の軽減	Q3 室外環境 (敷地内) 既存樹の保存
Q2 サービス性能	高耐久性外装材として外壁にれんがを採用	
LR1 エネルギー	LED照明器具の採用、窓に網戸設置、太陽光発電の設置	LR3 敷地外環境 屋外広告物照明なし
LR2 資源・マテリアル	京都産木材を一部使用	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される